

3 学校設定教科「地域みらい学」

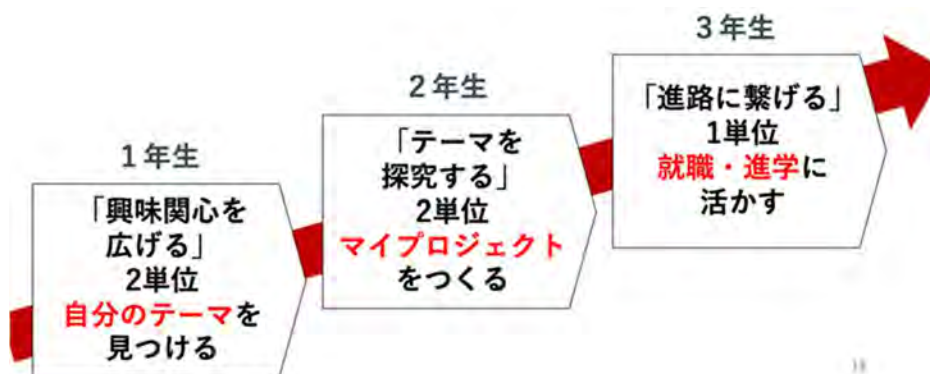
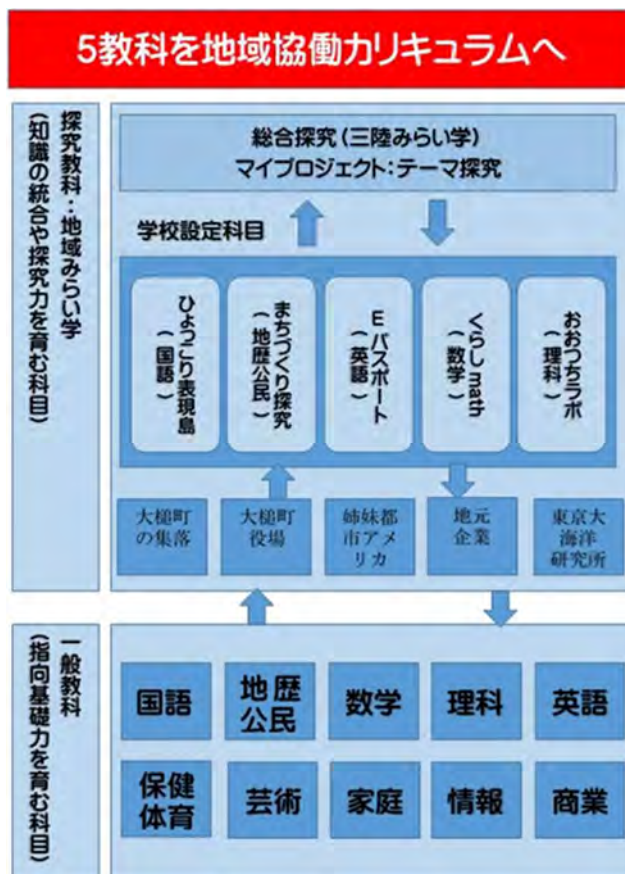
生徒の資質・能力の育成のために各教科・科目と総合的な探究の時間を相互に関連させ、教科横断的な学習を実現することと、就職を中心とするコースの生徒に対して、これまで通りの授業でよいかという疑問点から、より探究的な学びを実践する科目を設定し、カリキュラムの中に体系的・系統的に位置づける教育課程を構築した。

学校設定科目「三陸みらい探究」に加えて、国語、地理歴史・公民、数学、理科、英語のそれぞれが探究的な学びを実践する、「ひよっこり表現島」、「まちづくり探究」、「くらしmath」、「おおつちラボ」、「Eパスポート」を設定し地域協働カリキュラムとして令和3年度から実施を開始した。

◇各学校設定科目の実施状況◇

(1) 三陸みらい探究

三陸地域の復興を担うリーダーを育成することを目指し、3年間を通して身の回りや地域の課題を解決する力を身につけることを目標としている。同科目では、大槌町というフィールドを題材に、地域課題の発見・解決に向けた活動を実施した。東日本大震災を経験した大槌町を題材にすることで、生徒は複雑多様な地域の事情や住民感情の揺れ等に触れることになる。そのような状況から、自分自身を見つめ、理想の姿を描き、それを実現するための実践を行った。この学びを通して、地域を創る側の視点を持って社会参画する意欲と力を涵養するとともに、今後ますます不確実性の高まる未来を生きていく力を育むことを目指した。大槌町においては、震災後の生活基盤の復旧は完成を迎えている。今後は高校生が社会の構成員として主体的な意志をもち、理想の姿に向かい行動を起こすことも復興の姿そのものとなる。「三陸みらい探究」では、そうした地域におけるロールモデルの基盤となる資質・能力の育成を目指した。3年間を見通した流れは以下の図の通りである。



1年生では「興味関心を広げる」をテーマに、自分紹介プレゼンテーションや町内外の大人による人生講話、大槌町の行政をシミュレーションするワークショップ活動等に取り組んだ。自分自身に目を向けるところから徐々に視点を社会へ広げ、町内・町外の具体的な取組を知り、課題解決を体験的に学ぶ機会を設定している。

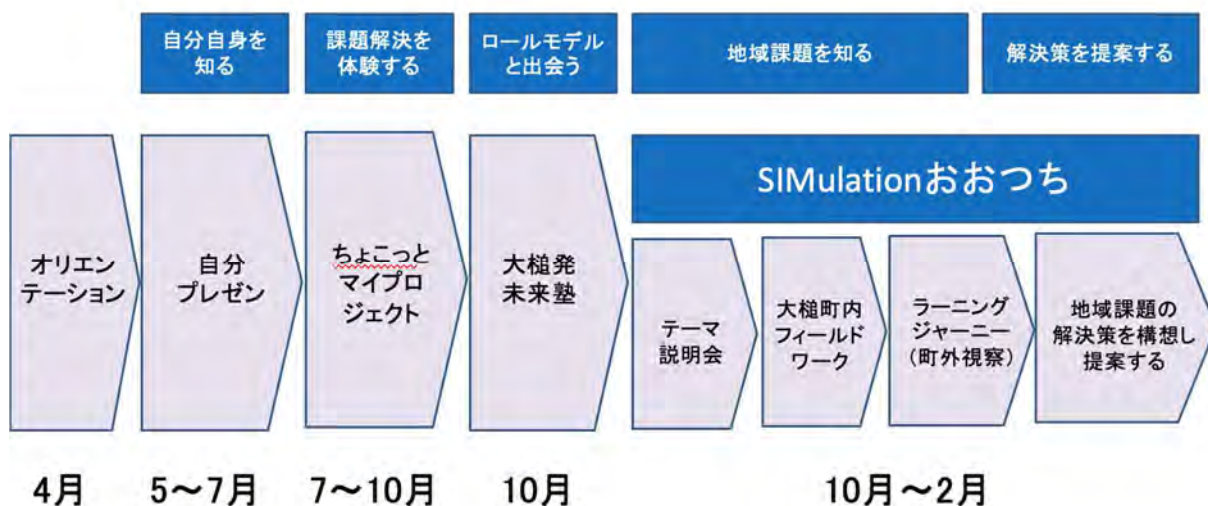
2年生では「テーマを探究する」をテーマに、自ら設定したテーマでプロジェクトを企画し、実行しながら探究を進めるマイプロジェクト活動に取り組んだ。各自の興味・関心から問いを設定し、他者や地域を巻き込みながら問いの検証を繰り返すことで、実践的な探究活動を目指している。

3年生では「進路に繋げる」をテーマに、大学・短大進学を目指す文理コースでは進路志望に関連したテーマでの探究活動、専門学校・就職を目指す「教養コース」では就きたい職業の未来を考える活動を実施した。また、18年間で得た強みや知見を語るプレゼンテーション活動を通して、これまでの学びを総括した。

ア 1年生の取組

1年生では自分と社会に目を向けながら心が動くテーマを探すことを目標に、自分紹介プレゼンテーションや、町内外のゲストによる人生講話、大槌町役場へのヒアリングや町外視察を通して大槌町の地域課題解決に向けた提案を行う活動に取り組んでいる。2年生で行うマイプロジェクト探究活動に向けた下地作りの時期と位置付け、生き方・考え方を見つめ直し、自分と地域社会課題との関わりを考える機会を繰り返し設定している。

1年間を通じた授業の流れは以下の通りである。



(ア) 自分プレゼン（4月～7月）

総合的な探究の時間を始めるにあたって、自己発見・自己理解を深めることを目的に、自分自身をプレゼンテーションする「自分プレゼン」の作成に取り組んだ。また、「自分プレゼン」を町内の中学3年生に行うことで、より深い理解につなげることを目指した。昨年度は、大槌学園・吉里吉里学園の生徒を分けて発表会を実施していたが、今年度は町内の9年生の交流を深めるために、大槌学園・吉里吉里学園が合同で大槌高校に集まり、対面での発表会を実施した。

◆授業の流れ

回数	日程	内容
1	4月12日（火）	オリエンテーション
2	4月19日（火）	学びに向かう関係性づくり①
3	4月26日（火）	学びに向かう関係性づくり②
4	5月10日（火）	自分グラフを使っての自己理解
5	5月17日（火）	ロールモデルの自分プレゼンを聞く
6	5月24日（火）	自分プレゼンをつくる①
7	5月31日（火）	自分プレゼンをつくる②
8	6月7日（火）	自分プレゼンをつくる③
9	6月21日（火）	自分プレゼンをつくる④
10	7月5日（火）	自分プレゼン発表練習（リハーサル）
11	7月7日（木）	自分プレゼン発表会

◆オリエンテーション・学びに向かう関係性づくり

オリエンテーションでは、総合的な探究の時間の年間を通した目的と流れを説明し、自らの意志を持ち主体的に行動することへの意識づけを行った。また授業全体を通してお互いの意見や考えを交流させる機会が多いため、心理的安心のある関係性づくりのためアイスブレイク（共通点探しゲーム・傾聴トレーニング等）を実施した。



◆ロールモデルの自分プレゼンを聞く

自分プレゼンテーションのお手本として、本校卒業生3名に授業に参加いただいた。人生の先輩方の経験談に触れることによって、自分が行う発表へのイメージづけを行った。



◆自分プレゼンの作成

今年度は、「私はなぜ大槌高校で学ぶのか」をテーマに、15年間の人生を振り返りつつ、大槌高校でどのような学びを実現したいのかをまとめ、5分程度のプレゼンテーションを作成した。最後はスケッチブックに清書し、紙芝居形式でのプレゼンテーションが完成した。



◆自分プレゼン発表会

日 時：令和4年7月7日（木）11：00～12：20

場 所：大槌高校 各教室

テーマ：「学園生に自分プレゼンを伝えることを通じて、自分についてより深く理解する」

「高校生の目標や生き方に触れることを通じて、進路意識を高める」

対 象：大槌学園9年生（71名）、吉里吉里学園9年生（14名）

日 程：

開始	終了	内容
11:00	11:05	【開会】 ・ 開会挨拶／趣旨説明
11:05	11:25	【アイスブレイク】 ・ 教室全体でのアイスブレイク ・ グループ内での自己紹介 ・ グループ内でのアイスブレイク
11:25	11:30	【発表に関する説明】 ・ 発表の聞く順番

		・ ワークシートの書き方
11:30	11:37	【発表】 ・ 高校生 1 回目発表（7分）
11:37	11:44	・ 高校生 2 回目発表（7分）
11:44	11:51	・ 高校生 3 回目発表（7分）
11:51	12:00	【グループ座談会】 ・ 学園生徒から高校生への質問 ・ 高校生から学校生活について語る
12:00	12:08	【感想記入タイム】 ・ ワークシートに感想を記入する
12:08	12:15	【グループ内感想共有】 ・ 班内で9年生から高校生に感想を伝える
12:15	12:20	【閉会】 ・ 学園生徒代表あいさつ ・ 大槌高校生より閉会の言葉

【当日の様子】

司会進行・アイスブレイクの運営もすべて生徒が行い、小グループにわかれて中学3年生への発表を行った。発表後は座談会を設定し、中学生からの質問を受けたり、高校生が学校生活を紹介したりする時間を設けた。生徒たちは、後輩やお世話になった先生の前で、自らの経験を堂々と発表することができた。



【生徒の感想】

- ・最初は、どのようなことを話したら良いか迷っていましたが、作成を進めていくにつれて、自分の気持ちを言葉で表せるようになったと思います。
- ・これまで、自分の人生を振り返ったり、今後の人生について深く考えたりするという機会がなかったので、プレゼンテーションを作ることで良い経験ができたと思います。
- ・プレゼンテーションをするのは初めてで、とても緊張しましたが、自分の失敗した経験を話すことは少し恥ずかしさがありましたが、中学生が真剣に聞いてくれたので、しっかりと伝えることができたと思います。

(イ) ちょこっとマイプロジェクト

身近な課題解決を体験することを目的として、夏休み中に1週間で取り組む「ちょこっとマイプロジェクト」を実施した。これまでに取り組んできた自己理解の活動の発展させ、後続するSIMulation おおつちで町の課題解決に向けた提案を行うことを見据えて、この時期に設定した。自分の設定したテーマの現状と理想から、1週間程度で実施できる課題解決に向けたアイデアを考案した。最後に活動をポスターにまとめ、成果発表を行った。

◆授業の流れ

回数	日程	内容
1	7月19日(火)	オリエンテーション
2	8月23日(火)	「ちょこっとマイプロジェクト」計画立案 ～「ちょこっとマイプロジェクト」実施期間～
3	9月2日(金)	「ちょこっとマイプロジェクト」発表準備①
4	9月6日(火)	「ちょこっとマイプロジェクト」発表準備②
5	10月4日(火)	「ちょこっとマイプロジェクト」発表会

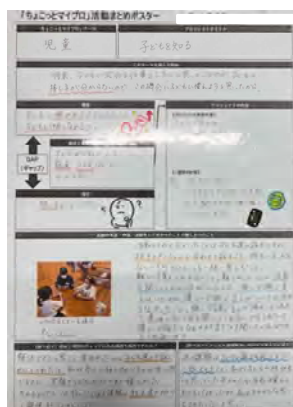
◆「ちょこっとマイプロジェクト」計画立案&実施

生徒が立案した「ちょこっとマイプロジェクト」には、以下のような企画があった。

- ・保育士の進路を見据え、子どもとのふれあい方を学ぶため、学童でボランティアをする。
- ・心理に関わる仕事の種類を調べるために、精神科医にオンラインでヒアリングを行う。
- ・自分が好きなウルトラマンの魅力について、中学生に伝えるイベントを開く。
- ・大槌の郷土料理である「すっぷく」の作り方を地域の方から学ぶ。
- ・中学校でお世話になった先生に自分の成長を伝えるため、手紙を書いて渡しに行く。
- ・1週間毎日タイピングゲームに取り組み、タイピング技術を向上させる。
- ・家の近所でよく聞こえる鳥の鳴き声が気になり、どの種類なのかを観察する。

◆「ちょこっとマイプロジェクト」発表

活動の成果を、写真と共にA3サイズのポスターにまとめた。8名程度のグループに分かれて、ポスターを使った成果発表を実施した。ポスターは、文化祭や町内のショッピングセンター等にも掲示し、生徒たちの活動を町民に広く伝えることができた。



(ウ) 大槌発未来塾 (10月)

「大槌発未来塾」とは、町内外や多様な年代の方々との交流や価値観の触れ合いを通して、自らの生き方・考え方を見つめ、今後の進路・自らの未来を考えていくための材料とすることを目的とした企画である。1学期、総合的な探究の時間では自分と向き合うことを通じて、自分の興味関心を探るという活動を行ってきた。さらにその学習を進めるために、高校生のロールモデルとなりうる地域内外の大人を招いて話を聞く機会を設けた。

◆概要

日 時：令和4年10月3日(月) 3・4校時

場 所：大槌高校体育館

テーマ：「身の回りの課題に取り組むチャレンジャーと出会う」

対 象：大槌高校1、2年生

日 程：

開始	終了	所要	内容
13:20	13:30	10	[移動] ・1ターム目の発表教室に移動 ・投影スライド等の接続確認
13:30	14:10	40	[ゲストとの対話①] ・開会挨拶(5分) ・自己紹介&アイスブレイク(5分) ・ゲストによるプレゼンテーション(20分) ・質疑応答(10分)
14:10	14:20	10	休憩・移動(次に聞くゲストの教室へ)
14:20	14:55	35	[ゲストとの対話②] ・自己紹介&アイスブレイク(5分) ・ゲストによるプレゼンテーション(20分) ・質疑応答(10分)
14:55	15:00	5	移動(各HRへ)
15:00	15:20	20	[振り返り] ・各HRで生徒と講師集合 ・生徒より感想共有、ゲストより生徒へのメッセージ(20分)

◆講師・プロフィール

No	分野	所属・氏名	プロフィール
1	観光	三陸花ホテルはまぎく 総支配人 立花和夫氏	宮古市出身。高校で上京し、卒業後は観光業に従事する。約30年間、三陸花ホテルはまぎく(旧波板観光ホテル)の支配人として従事し、震災による営業停止や再開な

			ど、様々な困難を乗り越えながら、三陸沿岸地域の観光業界を盛り上げている。
2	林業	大槌町産業振興課 林業担当 佐々木健介氏	釜石市出身。24年間、釜石地方森林組合で森林整備や森林管理等を担当した。令和3年4月から大槌町産業振興課一次産業活性化班で林業を担当し、町内の森林・林業に係る事業等に取り組んでいる。
3	福祉・教育	大槌町スクール ソーシャルワーカー 南景元氏	韓国出身。徴兵を終え、調理師を目指し、日本に留学。福祉の大学に入学し、学校で働くスクールソーシャルワークを学ぶ。東京で働いていた時に震災があり、ボランティアで大槌町に入った。
4	地域・教育	NPO 法人吉里吉里国 事務局長 松永いづみ氏	東京都出身。2012年に釜石へ、2017年からNPO 法人吉里吉里国に勤務。 ダンス、子どもの教育、国際協力（発展途上国支援）、復興支援、移住、森林環境教育等の様々な職種を経験。
5	芸術	塗師屋 谷藤怜美氏	京都府出身。西陣織を家業とする家に生まれ育つ。京都伝統工芸専門学校で漆と出会い、漆と西陣織を組み合わせるオリジナル技法を開発。結婚を機に、大槌町へ移住。
6	観光	一般社団法人 SUMICA 佐々木敦代氏	岩手県盛岡市出身、花巻育ち。震災をきっかけに岩手にUターンし、2012年から住田町に移住。地域づくりに関わる仕事を中心に、2014年にNPO 法人 wiz を、2015年に一般社団法人 SUMICA を設立。
7	環境	NPO 環境パートナーシップ いわて 坂下慶夏氏	大槌町吉里吉里出身。宮古高校卒業後に渡独し、環境先進国ドイツに魅せられ、大学でドイツの環境政策について学ぶ。大学卒業後は岩手に戻り、2020年から環境教育に携わっている。
8	アート・デザイン	株式会社ヘラルボニー 丹野晋太郎氏	岩手県・陸前高田市出身。震災をきっかけに、クリエイティブの世界へ飛び込み、クライアントワーク及び自社事業全般の企画制作推進を担当。デザイン業務にも従事。
9	大学生	宮城大学事業構想学群 2年 君島真叶氏	釜石市鶴住居町出身。本校卒業生。高校時代から地域づくりに関心を持ち、現在は地

			域の若者がマイプロジェクトに取り組めるようなイベントを実施している。
10	大学生	弘前大学人文社会学部 2年 倉本岳氏	大槌町吉里吉里出身。本校卒業生。吉里吉里大神楽に所属し、高校時代のマイプロでは郷土芸能をテーマに探究を進めた。

◆当日の様子

生徒は町内外 10 名の社会人・大学生から 2 名を選び、小グループでお話を聞いた。講師のみなさんに、自身に取り組んでいる分野についてのお話だけでなく、これまでの人生の中での悩み、葛藤等を丁寧に話していただくことで、生徒は自身の経験と照らし合わせながら聞くことができた。また、大槌高校出身の卒業生という身近な存在の話に触れた生徒は、同じような環境の中で自分の夢を実現していった先輩の姿に強く心を動かされている様子だった。



◆生徒の感想

- ・谷藤さんの話から、「やりたいことはやる」ということと「周りの人を頼る」という二つのことを強く感じました。漆塗りの作品を自分の目で初めて見て、素敵だなと思いました。伝統工芸を仕事にし、自信を持って自分の作品を紹介できることがとても素敵だなと思いました。
- ・松永さんのお話から、積極性の大切さを学び、チャレンジすることを恐れないということを教わりました。一度ダメだと思っても、次を探して選択の幅を広げていこうと思えました。私も好きなことをして、自分の夢を叶えたいです。
- ・物事へのアプローチの仕方や自分で考える力など、倉本さんがマイプロジェクトを通して得られたものを知ることができました。倉本さんのように、自分の好きなことをテーマにすることで、熱中してマイプロジェクトに取り組めるのかなと思ったので、テーマを決める時に参考にしたいと思いました。
- ・私は海外にすごく興味があるので、坂下さんの「少しでも興味があるなら行って見た方が良い」というお話を聞いて、私も若いうちに海外に行行って色々な経験をし、日本とは違う文化に触れてみたいと思いました。私もときめく瞬間を記憶してノートにまとめるということを実践して、将来に繋がれたら良いなと思いました。